

平成30年度

丹波篠山黒豆情報

第2号

平成30年8月30日 篠山市・JA丹波ささやま・丹波農業改良普及センター

*篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【生育】（平成30年8月23日篠山市定点調査結果より）

	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)
平成30年	61.5	17.7
平年(過去10カ年平均)	71.9	17.7
平年比	86%	100%
平成29年(参考)	71.0	18.0

- ・主茎長は平年（過去10ヶ年平均）比86%で短く、主茎節数は平年比100%で平年並みです。
- ・梅雨明け後、8月中旬まで降雨が少なく、高温・乾燥傾向が続いたため、一部で生育停滞が見られます。また、ほ場による生育差が平年に比べて大きい傾向です。

【病害虫】（平成30年8月23日篠山市定点調査結果より）

	立枯性病害 株率 (%)	カメムシ類 虫数/株	ノメイガ類 被害株率 (%)	サヤムシガ 被害株率 (%)	アブラムシ類 頭/小葉	ハダニ類 頭/小葉
平成30年	7.00	0.01	0.00	1.67	0.00	0.08
平年(過去10カ年平均)	2.00	0.11	8.53	21.96	0.06	0.42
平年比	350%	9%	0%	8%	0%	19%

- ・茎疫病などの立枯性病害の発生は平年より多く、一部で多発しているほ場が見られます。
- ・カメムシ類、ノメイガ類、サヤムシガなどの害虫の発生は、平年に比べて少ない傾向です。
- ・ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は8月中旬にピークが見られますが、昨年並みとなっています（発生消長のグラフ参照）。

【今後の対策】

1 立枯性病害（茎疫病）対策

①降水量は少ないもののまとまった降雨も見られたことから、茎疫病の発生したほ場が多く見られます。ほ場の排水対策を徹底するとともに、**薬剤防除を実施しましょう**。なお、茎疫病対象薬剤は**予防効果主体のため**、発病前または発病初期に散布しましょう。

- ②茎疫病は株元から発病するため、防除の際は薬剤が株元に十分かかるようにします。
- ③立枯性病害が発生した場合は、**発病株を早急に抜き取り**、抜き取った株は、**ほ場外に持ち出して処分**しましょう。

2 害虫対策

- ①カメムシ類、マメシンクイガ、フタスジヒメハムシなどは、着莢期、莢肥大期に莢を吸汁・食害して被害が大きくなるため、**薬剤防除を徹底**しましょう。
- ②ハダニ類は一部のほ場で多く見られます。ハダニ類の被害葉が見られた場合は、ハダニ類専用の薬剤で防除を実施しましょう。
- ③ハスモンヨトウは、フェロモントラップの捕殺虫数のピーク時期から7～10日後が幼虫のふ化最盛期となります。今年は、8月中旬にピークが見られるため、**早めの防除**を実施しましょう。また、食害を受けて白く見える葉（白変葉）は早めに除去しましょう。

上記病害虫の防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

3 干害対策

- ①降雨が無く、ほ場が乾燥した状態が続く場合は、谷が白く乾く前にかん水を行いましょう。特に、粒肥大期（9月中旬）にかけて土壌水分が不足すると、落花・落莢を引き起こし、着莢数や莢重の減少につながります。
- ②かん水は、日中の暑い時間は避け夕方または早朝に実施し、水は溜めたままにしないようにしましょう。

4 台風対策

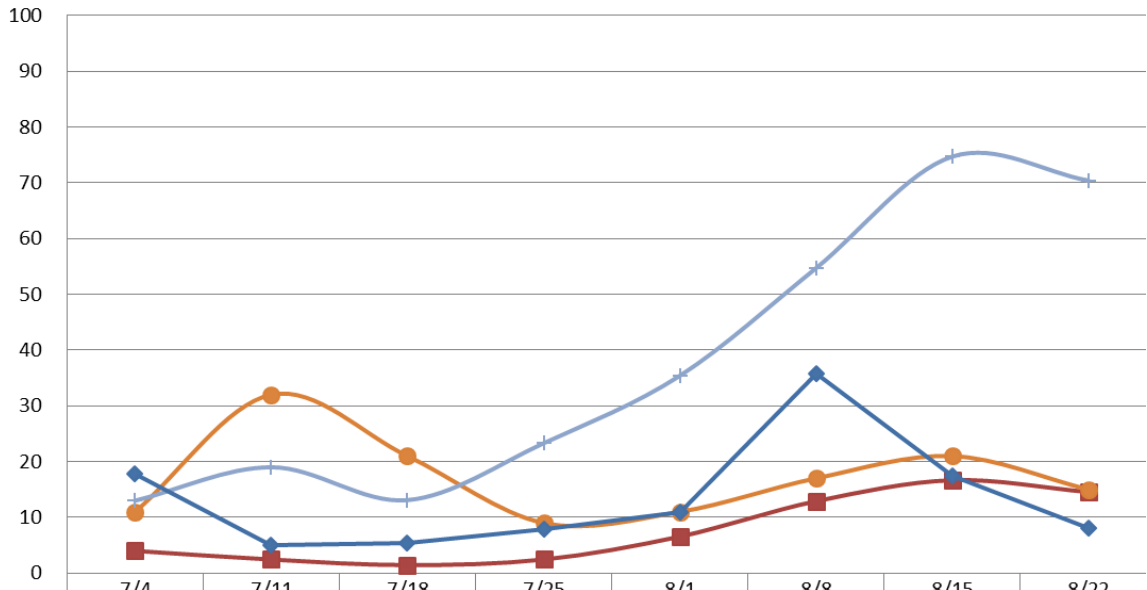
- ①今年より多くの台風が発生しています。集中的な大雨の後に水が停滞しないように、排水溝と排水口がつながっているなどの事前点検を行いましょう。
- ②強風で葉がもまれた場合は、斑点細菌病対策として殺菌剤で防除しましょう。

5 除草対策

- ①除草剤を使用する際は、雑草茎葉に散布し、黒大豆にかからないように畝間処理します。
- ②雑草を除去する場合は、黒大豆の株を傷つけないよう畝間の雑草を刈り払いましょう。

【ハスモンヨトウの発生消長（フェロモントラップ誘殺数）】

(匹) 頭数



	7/4	7/11	7/18	7/25	8/1	8/8	8/15	8/22
■ 平成30年	4	2	1	2	7	13	17	15
● 平成29年	11	32	21	9	11	17	21	15
+ 平成28年	13	19	13	23	35	55	75	70
◆ 平成27年	18	5	5	8	11	36	17	8